

2020 年度第 1 回豊岡市環境審議会 会議録

日時：2020 年 7 月 22 日（水）午後 1 時 30 分～4 時 20 分

会場：豊岡市役所本庁舎 7 階 第 3 委員会室

出席した委員：山室敦嗣、雀部真理、内海京子、毛戸 勝、島崎邦雄、菅村定昌、寺田正文
戸田勝之、中村 肇、橋本道江、

欠席した委員：岡崎典子、日下部昌男、土川忠浩、山下正明、山田博文

事務局：コウノトリ共生部 部長 川端啓介

コウノトリ共生部コウノトリ共生課

課長 宮下泰尚、係長 井上浩二、主事 戸田早苗

担当課：コウノトリ共生部農林水産課 農政係 係長 松下貴俊

コウノトリ共生部農林水産課 林務・水産係 主幹兼係長 久田 渉

コウノトリ共生部農林水産課 林務・水産係 主幹 西村文紀

市民生活部生活環境課 環境衛生係 係長 亀本英樹

1 開会（司会：宮下課長）

- ・会議の公開、会議概要の公表を確認
- ・配布資料の確認

2 あいさつ

- ・山室会長より挨拶
- ・川端部長より挨拶

3 協議（議長：山室会長）

【会長】次第に沿って進める。今年度の環境報告書の作成について、協議に入りたい。事務局から説明をお願いする。

【事務局】2019 年度環境報告書について、説明する。昨年度の報告書を踏襲した形式で今年度も作成する。例年前半の目標像の議論が活発となり後半が駆け足になるため、新たな試みとして、目標像⑩から①までを順番に、各目標像 15 分を目途に(10 分、15 分で合図)一つずつ審議いただく。トピックスの項目案を事務局で作成した。今回の会議で、項目の確定をしたい。決まった項目について、次回報告書の審議の際に文章の確認をいただくようにする。2019 年度評価案も昨年度の評価を基に加除筆による修正を事務局で行った。よく議論になるテーマ「森林の整備・有効活用」「有害鳥獣対策」「ごみの減量化」については、担当課が出席する。該当テーマが終われば退出する。「第 6 部 環境審議会の意見」について、これまで 2 回の審議会の意見を事務局が抽出してまとめていたが、今年は 2 回目の審議会で協議する。効率的な議論のため、配布した『「第 6 部 環境審議会の意見」に記載する内容』を活用して、事前

に自身の意見をまとめていただきたい。今回は、特に評価の内容について審議をいただきたい。環境報告書作成に向けて、今回を含め2回審議を行う。今回は可能な限り多くの意見をもらい、次の審議で反映した状態で確認いただく予定としている。

【事務局】「2019年度 環境報告書(案)」について「2018年度 豊岡市環境報告書」からの変更を説明する。目標像⑩から順に、説明の後審議に入っていただきたい。

【会長】審議に入っていくが、昨年度と進め方が変わっているところもあるため確認しながら進める。事務局から説明があったように今年度は目標像⑩から評価していく。できれば各目標像 10分～15分で議論し、評価案について意見をいただく。第2部(冊子)と評価案(1枚)を見ながら議論いただきたい。

《評価基準》

- ・よくがんばりました：▲(マイナス評価)より○(プラス評価)が3つ以上多い
- ・この調子でがんばろう：▲より○が1～2つ多い
- ・もっとがんばろう：▲と○が同数、または▲が多い

目標像⑩「環境をよくすることで経済が活性化され、交流も広がっています」

【事務局】「(3) 人・もの・情報の交流」の指標を変更した。「CSR活動による地域活性」として企業のCSR活動のみ掲載していたが「市外からのボランティア活動による交流・地域活性」に変更し、企業に限らず学校や団体等市外からの宿泊等を含むボランティア活動の件数を表で掲載した。トピックスは「コウノトリ育むお米の輸出」について記載を考えている。

【会長】事務局から3項目評価理由が挙がっている。「○コウノトリ育むお米の輸出国、輸出量が増加している。」(根拠：表「コウノトリ育むお米の海外への輸出状況」)、「○市外からのボランティア活動の受け入れによる交流が継続している。」(根拠：表「市外からのボランティア件数」)、「▲コウノトリ文化館の来館者数が減少している。」(根拠：グラフ「コウノトリ文化館来館者数(単年)」)。「○が2つ▲1つで「この調子でがんばろう」という評価になる。この事務局案に対し、指標を参考に意見や質問があればお願いしたい。

【委員】コウノトリ育むお米海外輸出は順調だが作付面積は昨年度に比べ減っている。この理由は何か。

【事務局】グラフの「コウノトリ育むお米」作付面積は、JA たじまが集荷している面積の実績。これは少し減っているが、コウノトリ育む農法全体の作付面積は増加している。直接販売されている農家は含まれないデータのため

【委員】JA以外のデータは出せないのか。

【事務局】第4部の表で公表されているデータのため、掲載は可能。

【委員】なぜ今までJAだけのデータだったのか。

【事務局】正当初の経緯は把握していないが、出荷量と併せて掲載できるものがJA たじまのデータであったと推測される。

【委員】確認だが、作付面積と出荷量のグラフがあり、雀部委員の質問だと作付面積は減っているが出荷量は増えている。そこの説明を求めているのではないか。

- 【委員】大きく出石が下がっている理由が分かれば教えてほしい。
- 【委員】JAのデータはコウノトリ育むお米生産部会のデータ。作付面積・出荷量が減った理由として、無農薬栽培のハードルが高くやめるという声も聞く。
- 【委員】これまで生産していた方がJAを抜けて自主販売するようになったケースも考えられるのか。データとしてこれまでは増えてきてよかったとしてきて、減ったとたんこれはJAだけのデータだとするのはフェアでないからどう評価するか。
- 【会長】JA選出の委員が欠席のため、次回の審議までに確認をして評価について提案いただきたい。
- 【委員】積み上げ棒グラフは個別の数字は分かるが全体の数字が分かりにくいいため合計の表示が欲しい。
- 【事務局】他のグラフについても合計の表示を追加する。
- 【委員】海外の輸出は、1,000t近くある出荷量のうち17.3tで前年度からは0.1tの増。割合としてはわずかであり、これを快調に増えていると言っていいのかは疑問。
- 【委員】輸出もJAがしているのか。
- 【事務局】そのとおり。
- 【会長】この書き方についても、委員に確認を。
- 【委員】「(2) 豊岡ブランド」のグラフ「コウノトリの舞認証品」の具体的な品目が知りたい。
- 【事務局】担当課に確認して、解説に追加する。
- 【委員】グラフ「コウノトリ文化館来館者数」だが、初年度の455,373人、次の417,159人という数字が異常であり、急激に減ったというより落ち着いたということ。バスが高くなりツアー等の団体客は減ったが個人客は増えているため、浸透しているともいえる。量だけでなく質にも触れてほしい。
- 【会長】今の話を解説に追加してもらいたい。
- 【委員】トピックスは「コウノトリ育むお米の輸出」について記載予定とあるが、具体的な内容はどのようなものか。
- 【事務局】2015年度のミラノ万博で、コウノトリ育むお米が日本館のレストランで使用されたことを契機に、輸出が順調に行われていることを記載する予定。
- 【会長】特に意見がなければ、トピックスはこの内容で進めてもらう。評価については、次回までに山下委員に確認の上、再度提案いただきたい。

目標像⑨「市民みんなが、楽しみながら省エネ行動を実践し、再生可能エネルギーの利用も増えています」

- 【事務局】「(2) 太陽光発電」に載せていたグラフ「市の施設への太陽光発電設置量」(件数、kW)は、新規施設もなく変化があまり見えないため削除した。代わりに、学校やコミュニティセンターなど市の施設へ太陽光発電システムを設置していることを文章で記載する。グラフ「大規模太陽光発電所 年間発電量」「大規模太陽光発電所 年間売電収入」のデータ選択に不備があり2014年度からのグラフになっていた。今回2012年度からのグラフに修正している。トピックスは「営農型ソーラーシェアリング」について記載を考えている。
- 【会長】評価案として「○住宅用太陽光発電設備の設置が広がっている。」(根拠：グラフ「住宅用太陽

光発電システム設置補助件数」「住宅用太陽光発電パネル設置量(kW)」、「○メガソーラーによる発電が順調である。」(根拠：グラフ「大規模太陽光発電所 年間発電量」)、「▲コバス利用者が減少している。」(根拠：グラフ「市街地循環バス(コバス)利用者数」)の3つ挙がっている。○が2つ▲1つで「この調子でがんばろう」という評価になる。意見や質問があればお願いしたい。

【委員】住宅用太陽光発電システムの設置は市から補助金を出していて、毎年同じ額ということか。

【事務局】補助金の実績で、補助単価はここ数年変わっていない。

【委員】コバスの利用者数だが、2018年度にルートが変更になり、2017年度から2018年度にかけて減少したことは理解できる。2019年度さらに減少している理由は何か。

【事務局】担当課に確認し改めて回答する。

【委員】日高町堀に太陽光パネルが設置してある。パネル周辺にかなり草が生えて覆っており、発電効率にも影響があると思われる。せっかく設置してもメンテナンスをしっかりとしないと意味がない。設備のメンテナンスに補助が出せるかは分からないが、市の補助金を活用して設置した物であればきちんと管理への対策も考えるべき。

【事務局】その太陽光パネルは事業者(株式会社カネカ)が設置している物。私有地を借地しているが市から補助した設置ではない。事業者への助言にとどまるが対応する。

【委員】今年度記載する必要はないが、コープがいろいろ取り組んでいる。環境の視点というより交通弱者(車を運転できない高齢者等)へのサポートの意味が強いが、希望者が複数あれば送迎や配達してくれるサービスがある。出石の眼科でもしているところがある。そういうことを促進するような施策はできないか。また、どの程度増えているか把握できるといい。

【事務局】ご意見は担当課に伝える。環境の分野では、公共交通以外の利用で運輸部門のエネルギー利用量が増えるという視点もあり、どう捉えるかは考える必要がある。

【委員】乗客が非常に少ない(1~2人)状態でコバスが町を走っている様子をよく見かける。非常にもったいないと思う。巡回ではなく必要に応じたシャトル形式にするなど改善はできないか。

【事務局】意見は担当課に伝える。

【委員】トピックスは何を記載するのか。

【事務局】営農型ソーラーシェアリングの設備が2カ所できたことを記載したい。一つは坪口農事未来研究所で7月に1号機が完成した。営農型ソーラーシェアリングは藤棚みたいな架台を使って、農地の上で太陽光発電、下では作物を育てる。坪口農事未来研究所1号機ではブルーベリーを育てている。もう一つは福田にある福井農園。環境省の補助事業を活用して太陽光発電の下で稲作をしている。発電した電力は農業施設で利用されているが、余剰電力は五荘地区コミュニティセンターで使用している。

【会長】トピックスは提案のとおり進めてもらい、評価については、次回再度提案いただきたい。

目標像⑧「市民みんなが、ごみの減量化を実践し、一人あたりの排出量が徐々に減っています」

【事務局】ごみの分類ごとの搬入量でグラフタイトルを「可燃・不燃ごみ搬入量」から「燃やすごみ・燃やさないごみ搬入量」に変更した。文字数削減を目的としていたが、市での呼び方・解説

と統一させる。トピックスは市役所が行っている紙のリサイクルについて記載を考えている。

【会長】 評価案は「▲クリーン但馬 10 万人大作戦の参加人数が減少している。」(根拠：グラフ『「クリーン但馬 10 万人大作戦」参加人数・ごみ回収量』)、「○市内にいつでも出せる古紙回収ボックスが浸透している。」(根拠：データなし)、「▲家庭から排出される一人当たりのごみ量が増加している。」(根拠：グラフ「市民一人当たりのごみ計画収集量」)の3つあり、「もっとがんばろう」という評価。意見や質問があればお願いしたい。

【事務局】 トピックス案「市役所の紙リサイクル」の内容は、市役所から出る新聞・段ボール・雑誌などの再資源化について記載したい。業者と単価契約をしており、2019 年度実績で 44 万円程度の収益があった。保存年限が過ぎた廃棄文書については、情報漏洩に十分配慮し融解処分の上トイレトペーパーの原料として再利用されている。さらに業者からは、その売り上げの一部をコウノトリ基金に寄附いただいている。どこまで記載するかは検討中だが、概ねの内容は以上。

【委員】 2019 年度のクリーン但馬 10 万人大作戦の参加人数は、ここ数年で一番少なく、全体を見てもかなり低い方に入る。何か理由があるのか。

【担当課】 クリーン但馬 10 万人大作戦は、但馬県民局環境課が事務局を担い集計しているため詳細はわからない。天候に左右されるイベントであり、高齢化に伴い市内でも実施を見送る区もあると聞いている。

【委員】 地域別の人数は分かるか。

【委員】 城崎では全然減っていないと感じている。観光地ということもあるだろう。高齢化・少子化が理由であれば都市部の方が参加者は減っているのではないか。旧 1 市 5 町単位で参加者数ができればそのあたりも分かる。

【担当課】 豊岡市内に関しては人数が出せる。今のデータ同様但馬の範囲は市では難しい。

【委員】 つまり、これは但馬全域の人数であり、豊岡市のデータもある。

【担当課】 豊岡の分は、区長からの集めたごみの回収依頼と併せて、実施日・参加人数等も報告いただいているため、ごみ量含めて大体把握している。

【委員】 豊岡市の環境審議会でも但馬全体のデータが出てくるのはおかしいのではないか。豊岡市外の増減は関係ない。

【事務局】 豊岡市に限ったデータがどこまで遡れるか分からないが、データを差し替える。本日回答ができないものについては、宿題として持ち帰り、改めて回答する。

【委員】 もともと指標が少ないためこのデータを用いたと考えられるが、天候に左右されるような 1 回のイベントの参加人数で「良い／悪い」を評価するのもどうなのか。ごみの量など生活に密着した指標が他にもあるのでは。人口減少に対してそれ以上にごみが増えている／減っているの方が大事。

【担当課】 人口は減っているが世帯数は徐々に微増している。例えば 5 人 1 世帯と 1 人 5 世帯を比較すると、同じ 5 人でも 1 人 5 世帯の方がごみ量は多い。生活するのに必要なものを一通り揃えることもあり、なかなか減っていないのも現状。レジ袋の有料化もされたが、今、生活環境課でプラスチックごみ削減計画を策定しようとしている。本日欠席の日下部委員が会長

をしている豊岡市環境衛生推進協議会とも連携してマイバッグ運動や生ごみの水切りなどを推進し、ごみの減量を広めていきたいと考えている。

【会長】出た意見を基にデータを整理して次回最終的な評価を出したい。トピックスは提案の内容で進める。

目標像⑦「子どもたちが、身近な地域の自然についてよく知り、大切にしています」

【事務局】コウノトリ KIDS クラブ会員数について、評価案で募集人数への言及があるため、グラフにデータとして追加した。トピックスは「出張！田んぼの学校」について記載を考えている。2017年度の報告書で NPO 法人コウノトリ市民研究所が実施している「田んぼの学校」について掲載したが、今回はその出張版として、地域や学校に講師を派遣しているものについて記載する。

【会長】評価案は「○コウノトリ KIDS クラブに定員以上の応募がある。」(根拠：グラフ「コウノトリ KIDS クラブ会員数」)、「○人と自然の共生を学ぶ高校の研究活動が定着しつつある。」(根拠：グラフ「高校生等地域研究支援補助金」)、「○各地で子どもの自然体験活動が浸透している。」(根拠：グラフ「生きものとふれあう体験学習(小学校)」、グラフ『「出張！田んぼの学校」実施回数』、グラフ「子どもの野生復帰大作戦参加者数」)の3つあり、「よくがんばりました」という評価。意見や質問があればお願いしたい。

【委員】グラフ「高校生等地域研究支援補助金」の、2019年度実績「5」は金額か。

【事務局】件数。

【委員】5件で、補助金額は。

【事務局】補助金額は、2018年度までは上限1件10万円。2019年度から上限が5万円になった。どの申請者も概ね上限額の申請がある。

【会長】グラフタイトルを「高校生等地域研究支援補助金」から「高校生等地域研究支援補助件数」に変更すれば誤解がない。解説で、補助上限額が10万円から5万円になったことも追加してほしい。

【委員】ここには行政が実施している事業が書いてあるが、民間でもかなべ自然学校やフォレストアドベンチャー、但馬自然史研究所等が頑張っており、お金が儲かるようになりつつあるのではないか。竹野には市立竹野子ども体験村もあり広がりが出てきてきていると感じるので記載してほしい。ちょうど市もPLAY豊岡を実施しているので、広い選択肢の中で子どもたちが自然の中で遊べる、それを支える人たちがたくさんできてきたということを書いてほしい。

【委員】豊岡市内で環境に関わっている NPO 法人・団体等の一覧は作れるのか。

【事務局】我々が知っている分については一覧にできるが、全てを把握できるわけではない。

【委員】行政は公平性が大事であり、こういう冊子に掲載するにも根拠が必要なのだろう。PLAY豊岡の一覧にあるものというくくりでも掲載を考えてほしい。

【事務局】トピックス案を「出張！田んぼの学校」としているが、委員提案の環境体験活動を実施している民間団体等についての記載に変更するのはどうか。

【事務局】データ収集については並行して行う。

【会長】トピックスは民間の取組みについて紹介することとする。

目標像⑥「様々な世代の人々が、地域の祭りや行事を楽しみ、未来へとつなげています」

【事務局】「(1) 地域を学ぶ機会」に歴史博物館「国府・国分寺館」が実施する講演会や体験講座等のイベント件数・参加人数の表を追加。「(2) 豊岡市の無形民俗文化財」に約4ページにわたる表を掲載していたが、出典資料「豊岡市の祭礼・年中行事等調査報告書(2016年度作成)」が随時更新されるものではないため『第3部「豊岡市の環境の状況」』に移動した。もともと掲載していた指定文化財と合わせて「(8) 文化財」として掲載。「(3) 地域コミュニティ」に掲載していた各コミュニティの交流事業を抜粋した表(出典：地域コミュニティ活動報告書)も削除し、正副会長の提案で、さまざまな世代の交流や地域の祭りなどの行事等、目標像の具体イメージに一致するような行事を説明等も含めトピックス的に掲載することを検討している。トピックスは、歴史博物館「国府・国分寺館」のリニューアルについて記載する。

【会長】評価案は「○各地域コミュニティで特色のある活動が行われている。」(根拠：指標(3) 地域コミュニティ)、「○地域の自然・歴史・文化に関する資料等を作成し、地域を学ぶ子どもたちが増えている。」(根拠：グラフ「地域の自然・歴史・文化に関する資料等作成校数」)、「▲少子化、高齢化の進行により、伝統行事の継続が難しくなっている。」(根拠：データなし)の3つあり、「この調子でがんばろう」という評価。意見や質問があればお願いしたい。

【委員】指標は今まで通りで良いと思うが、地域コミュニティに関して発言したい。コロナに向き合う中で地域コミュニティの考え方が今まで通りでいいのだろうか。屋外であっても行事で以前のように集まりにくい。ごみ拾いやボランティア等は今までのようにしているところもあるがどうやって集まっていくかなどやり方がちょっとずつ変わっていく。祭りにしてもスタンスの違いや今までと変わったことがでてくる時代。どうしていくかを考えた上での今後の目標を考えるべき。どう表現するかは事務局に任せたい。

【事務局】今の話は2020年度の環境報告書に向けて考えていきたいと思う。クリーン但馬10万人大作戦も今年はコロナの影響で中止しているため、統計をとればゼロかもしれない。そういったこともあるため、来年度の課題として考えたい。

【会長】評価もトピックスも提案のとおりとしたい。

目標像⑤「コウノトリも住める豊かな生態系が、バランスよく保たれています」

【事務局】指標「(1) 野外のコウノトリの状況」のグラフ2つは、データが間に合わず未着としている。グラフ「国交省自然再生事業湿地整備面積」は、前回までは棒グラフだったが単年の成果ではないため推移をみる折れ線グラフに変更した。トピックスは、内町環境保全組合の地域づくりの取組みが評価され「みどり豊かなふるさと大賞 知事賞」を受賞したことについて記載予定。

【会長】評価案は「○野外で暮らすコウノトリの個体数が増加している。」(根拠：グラフ「コウノトリ野外個体数」)、「○円山川自然再生事業により、湿地の改良と造成が行われ、ボランティア等による湿地保全活動が継続されている。」(根拠：グラフ「国交省自然再生事業湿地整備面積」)、「▲外来種駆除が進んでいない。」(根拠：データなし)の3つあり、「この調子でがんば

ろう」という評価。コウノトリの野外個体数については、データは未着だが前年度より増加しているということ。意見や質問があればお願いしたい。

【委員】 野外のコウノトリの状況について、今年 200 羽を超えた。どんどん増えていくと思うが上限はどこまでか。まだまだなのか。評価する際にどういう視点で見たらいいのか分からない。

【委員】 全国でみた野外個体数であり、但馬や豊岡市周辺に限ればもうほぼ収容能力いっぱいになっている。分散して全国に広がっている状況。

【委員】 どんどん増えている状況が望ましいというのは間違いないか。

【事務局】 最終的な目標に、希少種から普通種へというのがある。そのためには万を超える数字が欲しい。豊岡だけでなく全国、東アジア全体での数とはいえまだまだ数は少ない。併せて環境づくりに取り組まなければならない。

【委員】 目標像では“生態系が”と強調している。コウノトリが増えることで、生態系が豊かになる、生物多様性がという話だと思うので、外来種駆除や外来種のデータがもう少し欲しい。コウノトリの話が多くなるのは仕方ないが、生態系を評価できる指標が他にもあると評価がしやすくなる。

【委員】 無農薬で米作りをすると、繁茂する外来種のアゾラ(浮草)を除草剤で駆除できず流れて広がっていくのが課題。それで無農薬をあきらめる農家もある。

【委員】 生態系の調査結果は県立大学が持っているが、開示されていない。ただ、本当に論文になる可能性があるデータばかりではないだろう。県立大学は県民のためにあるべきと思っているのにデータを見せてもらえない。そういうものを見せてもらえればここで行っている議論もほとんど解決するのではないか。コウノトリ野生復帰のために作られた研究所と大学院が持っているデータを我々の求めに対して出してもらえないというのはおかしいと思う。

【委員】 具体的には、どういうデータか。

【委員】 例えば、無農薬の田んぼと慣行農法の田んぼで本当にカエルの発生に差があるかなど。そういうことは調べているはず。結果がどうかなど全く知らないが、もしかしたら農薬を入れるタイミングの影響の方が強いかもしれないとかたとえ無農薬であってもカエルが卵を産むときに水がなければ孵るわけがないので、その時に慣行農法の田んぼに水があればそっちに行くかもしれない。そういうことを教えてほしい。

【委員】 どこまで協力できるか分からないが確認する。

【委員】 外来種駆除に市から補助しているか。

【事務局】 豊岡市が実施している小さな自然再生活動支援助成事業では、生態系づくりとしてビオトープづくりや外来種駆除をした際に上限 5 万円で補助している。

【委員】 ちなみに、豊岡市管内での外来種一覧みたいなものはあるのか。

【委員】 NPO 法人が作成したリストがある。

【委員】 そんなデータも共有してほしい。

【委員】 近年オオキンケイギクのことを耳にする。きれいなのですごく目につくが、農道は除草作業と一緒に刈るところもあるが道路縁は誰も刈らない。

【委員】 一般の人はきれいな花としか思っていない。

【委員】 オオキンケイギクを外来種と思っていないようで、持ち帰って庭に植えてしまう人もいる。

市の広報紙にも出ていたが目を通す人ばかりではない。今は個人の行動の中でしかなく、市で駆除してほしい。個人で駆除する人もいるが、きれいに残して周囲の草だけを刈る人もいてなかなか駆除が進んでいない。

【事務局】有識者のアドバイスをいただき、市広報や市のホームページでオオキンケイギクについて掲載している。国道等国や県が管理している道路縁の草刈りの時期を、種が落ちる前の早めの時期にしてもらおうなど、有識者に働きかけてもらい対応している。

【委員】数年前、環境ネット出石で市の補助金を使ってオオキンケイギクのチラシをつくって出石の行政区に配布した。出石では公民館前などに貼ってもらったが、未だ普通に生えている。

【事務局】橋本委員が言ったように、自分の庭で育てている家庭が多々見受けられる。そのあたりをもう少し周知してやめさせないといけない。

【委員】セイタカアワダチソウも遊休地によく繁茂している。道縁ではあまり見かけないが、あれは花粉症等アレルギーを引き起こすのか。

【委員】花粉症は引き起こさない。花粉症を引き起こすには大量の花粉が必要であり、スギのような風媒花(風で花粉を運び受粉させる花)によるもの。セイタカアワダチソウは虫媒花(虫が花粉を運び受粉させる花)なので大きな花粉はできず飛ばない。毎日目の前に置き花粉を浴び続けるくらいの努力をしないとセイタカアワダチソウで花粉症にはならない。セイタカアワダチソウで花粉症になるというのは誤った情報。だが、日本の植物に害をなすという点では困った植物に間違いはない。何もせずに10年20年と放っておけばススキ草原になるが、人間が草刈りをしたり手を入れると増える。

【会長】評価については提案のとおりでいく。トピックスは、具体的にはどういったものか。

【事務局】内町環境保全組合という団体で、農地・水・環境保全という農林水産省の補助メニューを活用するために営農組合を立ち上げた。その組合が環境保全と合わせて、地域のホタルを見る会などの地域づくりを環境保全と合わせて行っていることが評価され「みどり豊かなふるさと大賞」知事賞受賞に至った。

【会長】そういった内容でトピックスは決定する。

目標像④「あちこちの川や海辺で、子どもたちの楽しむ声がきこえてきます」

【事務局】指標「(2) 不法投棄対策」の解説で「不法投棄防止看板や監視カメラを河川敷や山などに設置」としていたものを、より場所がイメージできるよう「河川敷や峠など」に変更し、「家庭ごみから自転車まで、さまざまなごみが河川敷に捨てられています」から、「河川敷に」を削除した。トピックスは、アユの産卵場づくりについて記載を考えている。

【会長】評価案は「○川や海岸を清掃するボランティア活動が市内各所で継続的に行われている。」(根拠: 指標「(5) 清掃活動」)、「▲大雨の後、河川敷の葦や刈り草などが海に流れている。」(根拠: データなし)、「▲不法投棄を減らすための対策を講じているが、状況は改善していない。」(根拠: グラフ「不法投棄対策」)の3つで、「もっとがんばろう」という評価。意見や質問があればお願いしたい。

【委員】評価案が去年と全く同じ文言になっているが構わないか。

【事務局】この指標で評価すると同じ評価になるのは仕方ないと考えている。

【委員】2018年度のトピックスで城崎中学校ボート部への指導について記載した。2019年度は、ドイツとスイスのボート選手団の合宿地に決まったことをトピックスにしてはどうか。城崎大橋の架け替えも順調で、ボート協会も川で遊ぼうとボート教室や啓発活動をしている。今年にはコロナの影響で中止だが意欲的に啓発活動に取り組んでいるため載せてほしい。

【事務局】トピックスのテーマをどちらにするかは、委員の皆さんで判断していただきたい。

【委員】アユの産卵床とはどういう内容か。

【事務局】国・県・市やNPO法人、漁協などで構成された円山川水系自然再生推進委員会という、河川の工事をどうするかなどを議論する場がある。そこで調査しているアユの遡上調査で、産卵が減っておりアユが減ってきたという結果だったので、みんなの力で川を耕してみようと始めた実験。2018年度から始めて今年で3年目と継続して行っている取組み。官民一体で行っていることもあり提案した。

【委員】アユは、浮石といって石と石の間に隙間があって水が流れているようなところに卵を産む。湧水があるところが一番いい。今は洪水等で埋まってしまって卵を産む場所がない。全国各地で、ジョレンなどで掘ってかき混ぜることで石を浮石状態にする取組みがされており、豊岡でもやろうと提案した。2019年度はこれまで全く利用していなかったところでも産卵が確認されており、実際に効果はあると思われる。ただ、あくまでも川に親んでもらうイベントとしてくらのことで、実証実験というわけではない。行政として実際に卵を産んでいることを確認するのと、今は環境DNAというのを調べられ、結果が出ておりいろいろな川に対する取組みとして面白いと思っている。去年は高校生や浜坂の漁協も参加するなど広がりも見せ、非常にいい取組み。川のトピックスとしてこの話と蓼川堰の全面魚道もあるので、いつかの機会にトピックスとして出してほしい。ドイツとスイスのボート合宿が今しかないならそちらで良いと思う。

【委員】皆さんの意見をききたい。

【委員】アユの方は2019年度？

【委員】2年間した。今年やめるとは聞いていないが、コロナの影響でできるかは分からない。

【委員】どこでしているのか。

【委員】出石川でしている。

【委員】せっかくだから両方掲載してはどうか。

【委員】不法投棄対策をしているが状況が改善されないというが、監視カメラを設置している効果はでているのか。

【事務局】担当課がないためデータ的なことはわからない。過去に担当したことがあるが、ダムでもカメラを置くと不法投棄は減る。だが、ゼロにはならない。摘発についても、在籍していたときで年に1件程度、罰金で数十万払わされた人がいた。最近のことは把握していない。

【委員】実際に家庭ごみから自転車までが捨てられているというのは確認しているのか。産業廃棄物も多いのでは。

【事務局】産業廃棄物もあるが、多くは家庭ごみ。

【委員】家電リサイクル法が制定されたとき、廃棄に金をかけるのが嫌だからと車の後ろに積んで山奥に持って行くということが結構増えた。

【事務局】田結から久美浜に抜けてジオトレイルのコースを開拓しようと、県民局と一緒に歩いた時も結構ごみがあり掃除した。人が普段いかないような、目につかないようなところに、早朝か深夜か分からないが車で乗り付けて捨てて帰るといったことがまだまだある。感覚的に減ったとかすごく効果が出ているとはまだ感じにくいと思っている。

【事務局】担当課に確認して改めて回答する。

【委員】漁礁の設置はどうして減っているのか。

【委員】詳しい状況は聞いていないが、予算の関係や単価が高くなったことで数を減らしているということがある。このグラフは豊岡市が補助しているものだけ。豊岡市が補助している物は利用権があり漁業者しか入ってはいけないという区域があってそこに設置しているが、最近では漁業者ではない人が入ってきて魚などを取って、どこかは分からないが持って行く。そういうこともあるので、漁礁をもっと増やしてもらえるとありがたいと思っている。

【委員】予算がないから設置できないということか。

【委員】そう聞いている。

【委員】豊岡市以外の補助で漁礁の設置もあるのか。

【委員】兵庫県の補助で、市の設置場所より外側に設置してもらっている。

【委員】グラフ「河川の稚魚・貝放流補助金」は豊岡市の補助か。

【事務局】豊岡市農林水産課が内水面漁業の振興ということで補助をしている。

【会長】質問が出たところについては次回、回答を踏まえて改めて検討したい。

目標像③「使われていない農地の利用が進み、生きものの豊かな田んぼが増えています」

【事務局】グラフ「学校給食での豊岡産野菜利用率」について、2015年度から「とよおか教育プラン実践計画」の中で目標値が設定されていることが分かったため、グラフに追加している。グラフ「学校給食での地場産物利用率」は、国の調査が秋ごろに予定されており、まだ集計されていないため未着としている。トピックスは、農業スクールの卒業生について記載を考えている。内容としては、グラフ「農業スクール研修生」の解説にあるように、卒業生が市内で就農していることを記載する。どこまで具体的に書くかは今後検討する。

【会長】評価案は「▲環境創造型農業の作付面積割合は減少している。」(根拠：グラフ「環境創造型農業作付面積割合」)、「▲冬期湛水を行う水田が減少している。」(根拠：グラフ「冬期湛水実施面積」)、「○集落営農が増えたり、農業スクール卒業生が豊岡で就農したり、多様な農業の担い手が増えつつある。」(根拠：グラフ「認定農業者数・営農組合等」、グラフ「農業スクール研修生」)、「○ビオトープ水田面積が増加している。」(根拠：グラフ「ビオトープ水田面積」)の4つで、「もっとがんばろう」という評価。意見や質問があればお願いしたい。

【委員】農業スクール研修生は2019年度の在校生が7人、卒業生が17人ということか。

【事務局】卒業生は累計。

【委員】解説で「それぞれ市内で就農しています」とあるが、卒業生は全員豊岡市内で就農しているのか。

【事務局】確認する。

【委員】集落営農が増えているというのはどのデータで分かるのか。

【事務局】13 ページのグラフ「認定農業者推移・営農組合等」の黄色の棒グラフだが、集落営農は前年に比べて1つ減っている。評価案が誤り。

【委員】減るといのはどういう状況か。やめてしまったということか。

【事務局】そのとおり。

【委員】冬期湛水の実施面積が減った理由は分かるか。

【委員】コウノトリ育む農法の作付面積が減少していることが影響しているのでは。

【委員】冬期湛水はコウノトリ育む農法と連動しているのか。

【委員】農法の要件に冬期湛水が含まれている。

【事務局】事実関係を確認して回答する。

【委員】解説にある環境保全型農業の基準は市のものか。

【事務局】2012年3月に「豊岡市農業振興戦略」を策定した。その中で「豊岡型環境創造型農業」として慣行農法と比較して農薬・化学肥料50%以上削減した農法を、2021年度に51%にするという目標を立てている。

【委員】国の環境保全型農業とは別物か。

【委員】国の事業に則るためにこの戦略を作ったわけではないのか。

【事務局】ここでいう環境創造型農業は豊岡市独自の基準によるもので、国の環境保全型農業とは異なる。

【委員】来年までに51%が目標と言ったか。

【事務局】「豊岡市農業振興計画」で来年2021年度に51%が目標となっている。だが、実績を見て分かるように目標と開きがあり、なかなか思うようには進んでいない。

【委員】環境創造型農業作付面積はどここのデータか。コウノトリ育む農法のグラフと読み替えて構わないのか。

【事務局】コウノトリ育む農法のデータは、グラフのグレーの棒。青が「その他の環境創造型農業」でコウノトリ育む農法以外の農薬や化学肥料を50%以上削減した農業。データの収集の方法については担当課に確認する。

【委員】このあたりのあまり芳しくない感じのことは、環境審議会が心配するというより農林水産課で原因を考えて対応していると認識していいか。グラフを見ているとコウノトリ育む農法は順調に増えているがその他の環境創造型農業は減っている。なぜだろうと思うが、そのあたりの分析は農林水産課が行っているのか。

【事務局】農林水産課が取り組んでいる。

【委員】全然目標の51%に届いていないことをどう考えているかが知りたい。

【会長】もし今日出席していれば、分かる範囲で回答いただきたい。

【事務局】農林水産課は出席しているが、山と有害獣の担当で、農業については回答できない。

【会長】分かった。次回で構わないので回答いただきたい。

【会長】評価の理由は、今上がっている内容を調整し、トピックスは農業スクール卒業生で進める。その他の環境創造型農業の減少理由等については次回説明をお願いしたい。

(協議終了後)

【事務局】改めて回答すると伝えた件について情報が入ったため回答する。まず集落営農の減少につ

いて、減ったのは出石の福居で集落営農を解散した。ただ、集落営農も解散せずとも休止しているところも現実としてあり、多少の増減はご理解いただきたい。農業スクール生は、基本的に卒業後市内で就農しているが、1人亡くなられた方がおり、その他16人が市内で就農している人数となる。

目標像②「里山が様々に利用され、関わる人が増えています」

【事務局】グラフや解説の変更はなし。トピックスは、昨年度の環境審議会で菅村委員から提案のあった「マウンテンバイク(MTB)フィールド」について記載を予定している。人が住まなくなった場所には野生動物が増えるため、産業等があり人が住める状態を作ることが大切であり、今回のフィールドにはそういった効果が期待されるという内容を記載する予定。

【会長】評価案は「〇ラムあるきが登山イベントとして浸透している。」(根拠：グラフ「ラムあるき登山参加者」)、「〇シカ有害被害撲滅大作戦の年間捕獲目標数 6,500 頭を達成している。」(根拠：グラフ『「シカ有害被害撲滅大作戦」の捕獲状況』)、「〇有害獣の駆除や防護柵の設置、緩衝地帯の整備が進んでおり、農林業獣被害額は減少している。」(根拠：グラフ「防護柵設置延長(補助金分)」、グラフ「緩衝地帯整備面積」、グラフ「農林業獣被害額」)の3つで、「よくがんばりました」という評価。意見や質問があればお願いしたい。

【委員】有害獣撲滅大作戦で「シカ」と書いてあるが、この書き方だとシカだけで 6,500 頭みたい。

【事務局】シカだけで 6,500 頭であっている。色分けは、11 月から3月の狩猟期に捕獲した「狩猟数」と有害獣として市が捕獲した「有害駆除数」。

【委員】グラフ「有害獣駆除数」との関連は。

【事務局】こちらは狩猟期の数が入っていないため、「有害駆除数」のみの数字。それで差が出ている。

【委員】グラフ『「シカ有害被害撲滅大作戦」の捕獲状況』は、有害駆除数と狩猟期の数の合算ということか。

【事務局】そのとおり。

【委員】ここ数年で、ヤマビルが明らかに増えている。マダニも増えている。過去にはマダニで亡くなった方もいたが、じわじわ大変な状況になってきている。

【委員】なぜ増えているのか。

【委員】シカが増えているから。ヤマビルはシカの体液を吸い、ダニもシカについてくる。

【委員】家庭菜園でも防護柵や電柵、ネットをしているが、被害が減少しているという感覚はない。家庭菜園だと被害の調査はないが、対策をしても被害にあうので作れない。

【委員】盆の時期はお墓に供えた花なんかも被害にあって、翌日行くと萎しかないということもある。

【委員】農家だけでなく、一般家庭も含めた農業というくくりでいえば、減った実感はないというのは正直なところ。

【事務局】このグラフのデータは農家アンケートのため、家庭菜園は把握できていない。

【委員】シカの被害が少なくなってきた。

【委員】シカは明らかに減っている。

【委員】シカ以外が増えている。

【委員】シカは減ってはいるが、もともとの数が多い。だが、山の緑が目に見えて戻ってきており、

ピークより明らかに減っている。

- 【委員】来日山のあたりを通ることがよくあるが、シカが結構走っている。角を曲がるたびに2～3頭見かける。
- 【担当課】県の動物センターが研究しているデータで豊岡市内におけるシカの推定生息頭数がある。推定のため研究によって変化するものだが、2013年度末の頭数と比較して2017年度末は40%ほど減っている。
- 【委員】シカが減りすぎると何か影響はあるか。
- 【委員】その研究はされていないが、シカは年率2割で増える。すこし捕獲の手を緩めればすぐに頭数が回復する。
- 【委員】グラフ「農林業獣被害額」は、農家から挙がってきた調査結果ということで、家庭菜園等の被害は分からないということを解説に加えてほしい。
- 【委員】地域の農会でシカについて勉強会を行った。市の有害鳥獣対策員の話の聞いたら、コシヒカリを育てるようになってシカが増えたと。5月から10月ごろまで稲作をして、稲を刈った後の2番穂を好むらしくシカのエサ場となっている。農家が稲刈りをした後耕うんをすることでエサ場を減らせる。これからどんどん暑くなってコシヒカリの栽培適地でなくなり違う品種を作るようになったら、シカにも影響するのではないか。
- 【委員】バッファゾーンの事業は2015年度以降実績がないわけではなく打ち切りか。
- 【担当課】以前はバッファゾーン整備事業という市の事業も行っていたが、今は県の「野生動物育成(共生)林事業」の中で実施をし、年に1～2カ所のペースで整備を進めている。実施主体が異なるだけで、どちらもバッファゾーン、いわゆる緩衝地帯の整備という点では変わらない。
- 【会長】目標像②については、提案された評価の方向性と評価案で進みたい。トピックスについても特に意見はなかったため、アップ可能なマウンテンバイクフィールドを取り上げたい。

目標像①「手入れの行き届いた豊かな森がきれいな空気や水を育んでいます」

- 【事務局】「分収造林」の用語説明で「分収契約」の意味が分かりづらかったため、説明文を「造林者と土地所有者が異なり、両者が造林による収益を分け合う契約をした山林」に変更した。グラフ「豊岡産ペレット販売量」の解説に2019年8月末を以てペレット生産を終了したことを加えている。トピックスは、森林計画に基づく間伐事業について。内容は、森林を適切に管理するため、「森林経営計画」に基づいて間伐等を行っていることについて記載を考えている。
- 【会長】評価案は「○住宅への木質バイオマス利用機器の設置が広がりつつある。」(根拠：グラフ「木質バイオマス利用機器設置補助件数」)、「○バイオマス発電所への間伐材提供が増加している。」(根拠：グラフ「間伐材提供量(朝来バイオマス発電所)」)の2つで、「よくがんばりました」という評価。意見や質問があればお願いしたい。
- 【委員】ペレットの生産を終了したと書いてあるが、これまでからペレットストーブを使っている人は燃料をどうすればいいのか。
- 【担当課】先ほど説明したとおり、豊岡市内での生産は終了した。言われる通りペレットボイラー・ストーブについては継続して使用いただいている。その場合は、豊岡市外からペレットを仕入れて供給するというので、一部ボイラーについては、その方向で供給を行っている。ス

トープについて、本格稼働は寒くなってからで、詳細はまだ詰めている最中だが、いずれにしても生産終了しているため市外から仕入れて供給することになる。残念ながら原産・流通はできなくなったが、機器は引き続き使用していく。

【委員】昨年度朝来バイオマス発電所の見学に行った際、発電所はずっと続くわけではなく何年かしか稼働しないと説明をきいた。そのあと建物等はどうするのだろうか。

【事務局】あの時の説明は、FIT 制度での買取があるからやっていける、それが終了するとやっていけないという話だったように思う。規模が小さすぎて利益が出せない、発電コストが抑えられれば利益が成り立つ等あるのだろうが、確かに制度が終了すれば閉鎖と話していた。その後のことは、事業主体ではないため分からない。

【委員】北但東部森林組合がペレット生産をやめた後の施設を活用して何か新しいことをする予定はあるのか。

【委員】報告書に記載があるように、朝来市のバイオマスエネルギー材供給センターへの木材供給に転換した。

【委員】数年後に朝来バイオマス発電所が停止すると木材の供給ができなくなるのでは。

【委員】FIT 期間が 20 年間であるから、20 年間は木材の供給が続けられる。今は非常にたくさん供給されて順調にいと聞いている。

【委員】評価理由だが、「間伐材提供」より「間伐材供給」のほうが適切。

【事務局】グラフタイトルも「提供」から「供給」に変更する。

【委員】グラフ「森林整備面積」は、どういった事業のデータか。

【担当課】解説にある「住民参画型森林整備事業」「里山防災林整備事業」合算データ。「住民参画型森林整備事業」は、県の補助を受けて地区(地元)が実施主体となり、地元の人たちの力で里山を整備していこうと整備した面積。「里山防災林整備事業」は、集落の人家裏で斜面の崩落を防ぐために危険林の伐採や簡易防災施設を整備した。

【委員】「住民参画型森林整備事業」は、お金が県からでて、地元の人が労働力を提供して取り組むという理解で間違いないか。

【担当課】間違いない。「里山防災林整備事業」も事業主体は同じく県だが、実施主体は林業事業体。

【委員】住民が労働力を提供して昨年度は 2 ha 取り組んだ。これは 1 年やればしばらく手をかける必要がないのか、継続して作業が必要なものか。

【担当課】詳細を話すと、この 2 ha は 3 年間で実施している。3 年間の実行計画を提出いただき、森林を整備するにあたってのイニシャルコスト、例えばチェーンソーの導入や林業手当てがないと切れない大きな木の伐採を委託するための費用など、地元が主体でやっている。

【委員】「住民参画型森林整備事業」は 2013 年度から安定した実績があるが、「里山防災林整備事業」はやや右肩下がり。これはどう解釈すればよいか。

【担当課】あくまでも地元からの要望を踏まえて事業計画等がなされていると思うがそれとは別に、実施主体である市内の林業事業体の意向の問題もある。人手の問題など。そういったこともあって減ってきているのではないかと思うが詳細は分からない。

【委員】防災林整備なので一度整備したらそれである程度の期間整備しなくてもいいというものなのかが分からない。下がってきているというのをどう解釈するかが難しい。

【担当課】山の整備はどんな整備でも同じだが、再生される。何年か経てば同じような状態に戻ってくるということもあるが、これについては地元での管理の手も入っている。県の補助に関しては同じところが何度も申請するという感じではない。

【委員】事業主体・実施主体等、解説をもう少し分かりやすく記述してほしい。

【会長】目標像①の評価についても提案の内容で進める。トピックスについては、具体的な内容を説明してもらいたい。

【事務局】災害の防止や雨水のかん養など森林が持つ「多面的な機能」を十分に発揮させるための「森林経営」という考え方があり、「森林経営計画」という5年計画で進めている。林業従事者等からの申請を市町村が認定し、間伐等の整備に取り組む。「森林経営計画」という計画があり、それに基づいて管理をしているということを記載する予定である。

【委員】これは市の取組みか。

【事務局】「森林経営計画」自体は林業従事者が立てる。

【委員】豊岡市から認定を受け、それに基づいて間伐事業を行っている。

【会長】目標像⑩から①までの協議をしてきた。今日の意見・質問を踏まえて次回、再度協議して評価を確定したい。併せて、第6部も審議会の意見として環境報告書に記載する内容についても話し合ってもらおう。宿題のようになるが、持ち帰り用紙に意見を記載していただきたい。以上で協議を終わる。

4 事務連絡

- ・ 次回の審議会について
- ・ 今後のスケジュールについて
- ・ 委員報酬の振込について
- ・ 委員改選について

5 閉会

- ・ 雀部副会長あいさつ